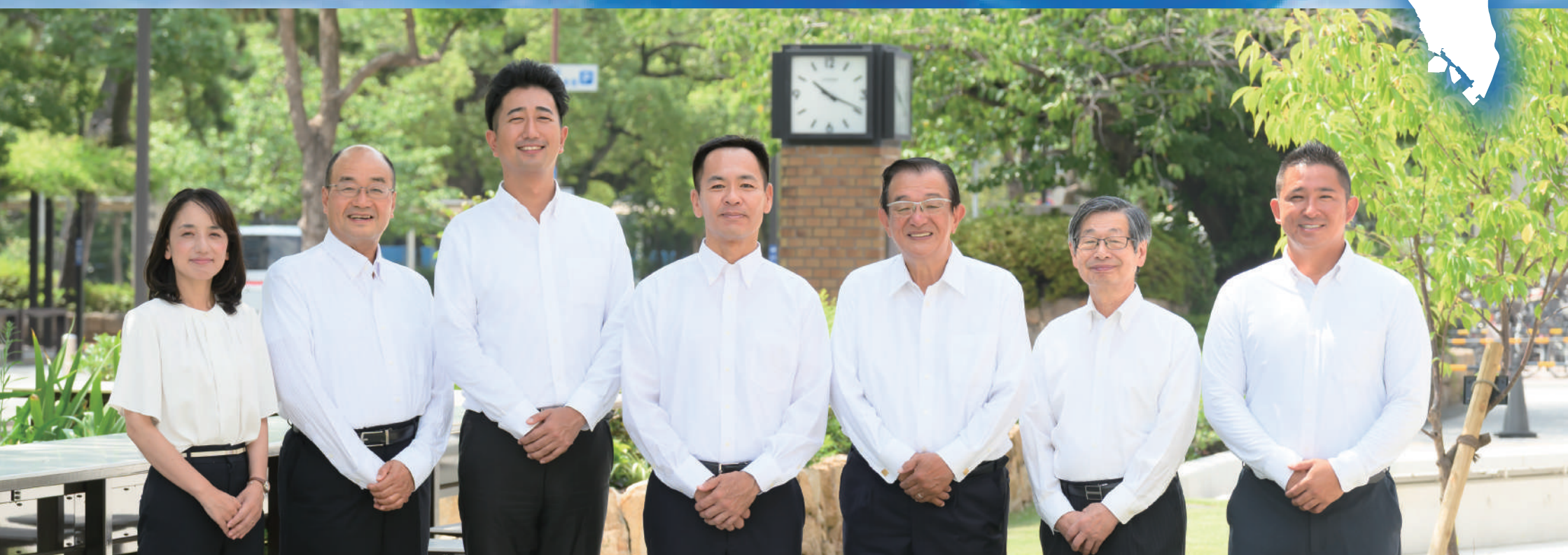




牧みゆき

総務常任委員
阪神水道企業団議会議員

かんの雅一

教育こども常任委員長

たかのしん

幹事長・議会運営委員長
教育こども常任委員

しぶや祐介

代表・議会運営委員
総務常任委員

草加ともきよ

建設常任委員

八木米太郎

民生常任委員

おおさこ純司郎

健康福祉常任委員長

代表・しぶや祐介が語る！現在の市政運営に抱く危機感

危機的な財政状況

石井市長の市長就任は平成30年(2018年)4月。就任初年度から赤字となり、翌年度には実質単年度収支で50億円以上の大赤字となりました。その後、令和2年度は外郭団体に対する貸付金の返還、令和3年度はコロナに伴う国からの交付金増といった臨時的な収入のおかげで黒字となりましたが、令和4～6年度の実質単年度収支は3年連続で大幅な赤字。石井市長の在任中は毎年、実質的な大幅赤字が続いています。このままでは数年以内に基金(=自治体の貯金)が底をつき、予算を編成できなくなる可能性さえあるというのが、本市の厳しい現状なのです。議会もこの状況を重く受け止め、令和7年度当初予算を反対多数で否決。当初予算が否決されたのは、今年100周年を迎えた西宮市政の歴史上、初めてのことです。

本市職員の給与制度が抱える構造的な問題にメスを入れました！

私は、本市職員の人件費の高さこそが、財政危機に陥った最大の原因だと考えています。全国的に地方自治体職員の給与が減少傾向にあった中、本市職員の平均給与は上昇し続け令和3年以降、3年連続で全国一の高さに。結果、本市職員の給与総額は年間240億円近く、人口50万人未満の中核市(=西宮市と同規模の自治体)の中では東大阪市の188億円を50億円近く引き離して、ダントツの高さとなっています。ところが、市は、高すぎる人件費を圧縮するための新たな取組を一切示そうとしません。こうした状況を是正するため、私は本年3月議会において国家公務員より高い給与水準にある事務職・技術職等の昇給を認めず、現在の金額に抑える内容の議案を提出、賛成多数で可決されました。これによって本市の給与制度が抱える構造的な問題に初めてメスが入りました。

危機感に欠ける石井市政にNO！

一方で、学校用務員やごみ収集員・給食調理員など、定型的業務に従事する技能労務職員の給与水準が類似都市の平均と比べて20%程度、国と比べて25%高いことや、これら職種を中心に、他市には存在しない(もしくはあっても遥かに金額が低い)手当が多く存在することは問題です。また外郭団体への天下りや、それに伴う市役所OBである高齢職員の長期在籍といった問題もあります。

私は、市民に多くの負担を求める以上、人件費の圧縮に代表される市役所内部の改革を徹底的に進めることは当然と考えていますが、市からそうした姿勢はうかがえません。危機感に欠ける市政運営を続け、西宮市を財政危機に陥らせた石井市政を終わらせない限り、こうした現状を変えることはできません。

代表 しぶや祐介 プロフィール

- 昭和48年(1973年)12月、西宮市生まれ。
- 善塔幼、浜脇小、浜脇中、明星高、京都大(経)卒。
- 平成8年(1996年)阪急電鉄株式会社入社。ブックファースト(書店)・アズナス(コンビニ)など、小売事業を中心にキャリアを積む。
- 平成16年(2004年)西宮市議会議員補欠選挙にて初当選。政党無所属、現在6期目。
- 初当選以来、「行動する政治」を掲げ、行政改革・子育て支援・高齢者福祉などの政策実現に取り組む。
- 年4回発行の市政報告チラシは82号、週2回更新のブログは2,500回以上を数えるなど、広報活動に注力。
- 平成23年(2015年)に「会派・ぜんしん」を結成し、幹事長を務める。
- 令和2年(2020年)第91代西宮市議会議員に就任。副議長、議会運営委員長、総務常任委員長、市民文教常任委員長、建設常任委員長を歴任。
- 伏原町自治会顧問、北口町自治会顧問、西宮市消防団団員(浜脇分団)。
- 妻・長男・次男・三男の五人家族。
- 座右の銘は「大道無門」「一利を興すは一害を除くに如かず」。

西宮市議会議員 しぶや祐介の活動日記
<https://ameblo.jp/shibuya1973/>



しぶや 祐介

7名の所属議員がそれぞれの強みを活かして政策実現をめざします！

武庫川流域・鳴尾地域の防災・減災に全力！



草加 ともきよ
(10期目)

阪神・淡路大震災から30年という節目の年を迎え、あの未曾有の災害を経験した議員として、震災の教訓を胸に防災・減災対策に取り組んでいます。武庫川では、人口や家屋・家財等の資産が集中する下流域の氾濫対策として、従来の河川改修に加え、保水・貯留を組み合わせた総合的な治水対策が進められています。現在は、川の流れをスムーズにするために川底を掘り下げる工事や、護岸を補強する工事が実施されています。鳴尾地域では、南海トラフ巨大地震による最大クラスの津波を想定した対策や、平成30年の台風21号による被害を踏まえた高潮対策事業など、複合的な工事が平成30年度から進められ、県・市・地域が連携し令和7年度完了を目指しています。

長年にわたり北部地域の課題に取り組んでいます。



八木 米太郎
(8期目)

本市北部に住む市民にとって、国道176号・名塩道路の整備は最重要課題です。現在、国の直轄事業として、本市山口町～宝塚市栄町間10.6km、うち7.2kmが開通済で、残る東久保地区2.1kmと生瀬地区1.3kmの工事が進められています。生瀬地区は令和8年春開通予定と発表されていましたが、生瀬トンネル周辺の斜面で予想外の硬質岩が出現し、開通時期の延期が発表されました。同地区では県による武庫川河川改修、市による西宝橋架替工事も同時に進められており、東久保地区とあわせて、早期供用開始が切望されています。国・県・市の良き連携が期待されており、地域課題への取り組みを重ねてきた議員として、今後も力を注いでまいります。

保育所待機児童問題への具体的な対策を！



しぶや 祐介
(6期目)

本年4月1日時点における西宮市の保育所待機児童数は76人。令和5年度56人(全国ワースト3位)、令和6年度121人(全国ワースト2位)に続き、今年も多く待機児童が発生しました。少子化の進行に伴い、全国的には待機児童問題は沈静しつつありますが、本市では依然、多くの待機児童が発生しています。石井市長は令和4年の市長選挙において、重要公約の一つに「待機児童ゼロ」を掲げましたが、一度も公約を実現できませんでした。待機児童の多くが1・2歳児であることを踏まえた「0～2歳を対象とする地域型保育所の拡充」「年齢別定員の見直しによる1・2歳児の受入増」や、「私立幼稚園の認定こども園化」を進め、早急に待機児童問題を解消するべきです。

部活動の地域展開は子供の負担を最小限に！



かんの 雅一
(3期目)

市は令和8年9月から市立中学校部活動の地域展開を実施します。これに伴って市立中学校部活動は原則として8年8月で終了します。地域展開をめぐる受け皿となる地域クラブや指導者の確保、活動場所や用具の取り扱い、教員の関わり、地域クラブの会費に対する保護者の経済的負担の増大などの課題が多く、子供や保護者、教員から不安の声が出ています。しかし、市は不安を解消できるだけの回答を持っていません。少子化の進展等で学校部活動の維持が難しくなっており、地域展開は不可避な状況です。それだけに、子供や保護者の精神的・経済的負担を最小限にすることが重要であり、子供や保護者に寄り添った地域展開を市に提案していきます。

介護・福祉×子育てのダブルケア世代を支える！



おおさこ 純司郎
(2期目)

私は長年、介護現場でケアマネジャーや介護福祉士として働いてきました。その経験をきっかけに市議会議員となり、皆さんが安心して暮らせるよう地域で支え合う介護の実現に全力投球しています。人材不足が深刻化する中、まずは介護従事者の処遇改善が欠かせません。在宅で介護を行うご家族の負担を軽減するために、通所介護をはじめ訪問看護・介護・施設サービスを柔軟に利用できる制度の導入や、レスパイトケア（一時休息のためのサービス）の充実を訴えています。介護予防の取り組みも重視しており、地域でのいきいき体操など健康教室や運動プログラムを拡充し、高齢者が要介護状態になることを予防して、健康寿命の延伸を目指します。

計画策定業務の見直しが進捗しています。



たかの しん
(2期目)

市役所では各部署が様々な計画を策定しており、多くの職員が策定業務に携わっていますが、計画の目的や効果が不透明なケースも多く見られます。私が調査したところ、市には127件の計画等が存在し、策定にあたってコンサルティング会社等へ支払った委託料は約3億9千万円、印刷費は約1,700万円にのぼることが判明。そこで私は、計画の必要性を精査した上で、策定の取りやめや簡素化を進めるよう求めました。私の主張を受けて、市は「計画策定業務の見直し」を全庁的な方針として掲げ、これまでに複数の計画が廃止・簡素化されました。貴重な人員や財源を市民サービスの充実に充てられるよう、今後も行政改革に向けた具体的な提言を続けてまいります。

西宮の自然と暮らしを守り100年後の未来へつなぐ。



牧 みゆき
(1期目)

温暖化や気候変動への対策として国の脱炭素化政策が進む中、市は「2050年にCO₂排出量実質ゼロ」をめざす「ゼロカーボンシティ推進事業」の一環として、未利用地におけるメガソーラー（大規模太陽光発電設備）の建設と、20年間の運用を計画していました。しかし、全国各地で問題となっている通り、メガソーラーには環境・人・生態系等への悪影響が懸念され、財政的リスクも否定できません。この方針が発表されてから、私は見直しを強く求め続け、令和7年6月に計画は白紙となりました。環境学習都市宣言の理念に基づき、地域との共生を大切にしながら、西宮の環境と人に優しく、時間をかけて守り育てていく本質的な環境政策を、これからも提言してまいります。

会派・ぜんしん PROFILE



西宮市議会の議会内会派。平成27年(2015年)に結成。政党無所属の保守系議員7名で構成。市民の暮らしに根差した行政サービスを推進するとともに、人口減少や高齢社会、財政難などの将来的な諸問題に備える体制づくりを進めるために、様々な施策を分析し、具体的な政策提案を行う。行動理念として「二元代表制を尊重」「民主主義を尊重」「市政の推進を最優先」「会派で結束して行動」「会派で情報を共有」の5箇条を掲げる。

ご意見・ご感想をお寄せください。